



草津温泉



草津温泉百年の計

入込客数400万人を達成し
独自の経営理論を行政財政に融合させたまちづくり

草津町長 黒岩信忠



Project KUSATSU

温泉と高原、文化とスポーツの 国際温泉リゾート 草津

草津町は群馬県の北西部に位置し、面積は49.75 k m²、人口約6,000人、第3次産業従事者が約90%近くを占める観光の町です。

草津温泉は良質で豊富な湯量と雄大な自然を誇り古くから日本随一の観光地として名を馳せております。

古来より「美人の湯」とも云われ、全身の新陳代謝を促し、健康と美容に抜群の効果を発揮する温泉、それが草津なのです。

そして、四季折々の雄大な自然景観に加え、湯畑広場や西の河原公園、地蔵広場など、町の至る所から温泉が湧き、湯けむりのゆらぎに照明を充てた唯一無二の空間が日暮れと共に現れます。

100年先も温泉観光地のトップランカーであり続けるまちづくりに大いに期待していただきたいと考えております。

みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

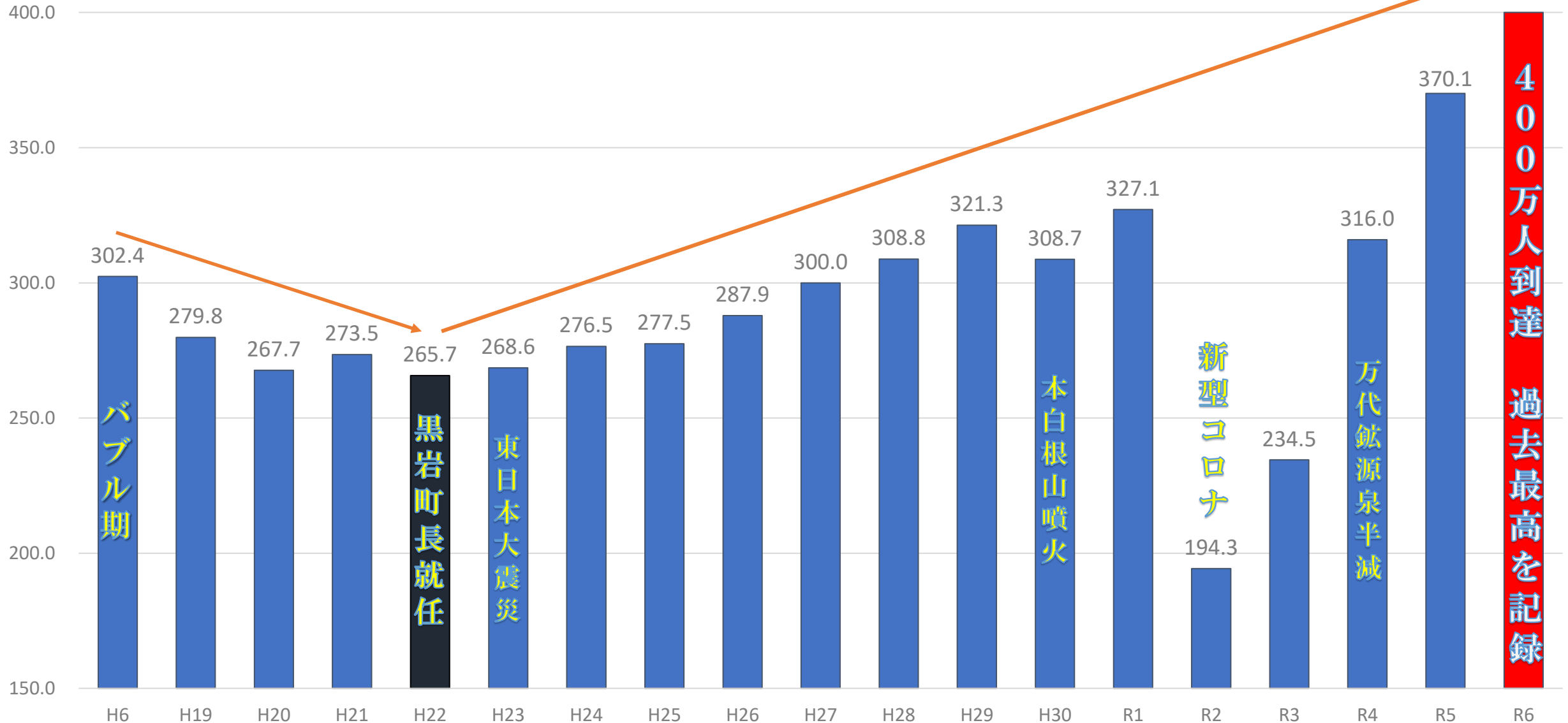
草津町長 黒岩信忠



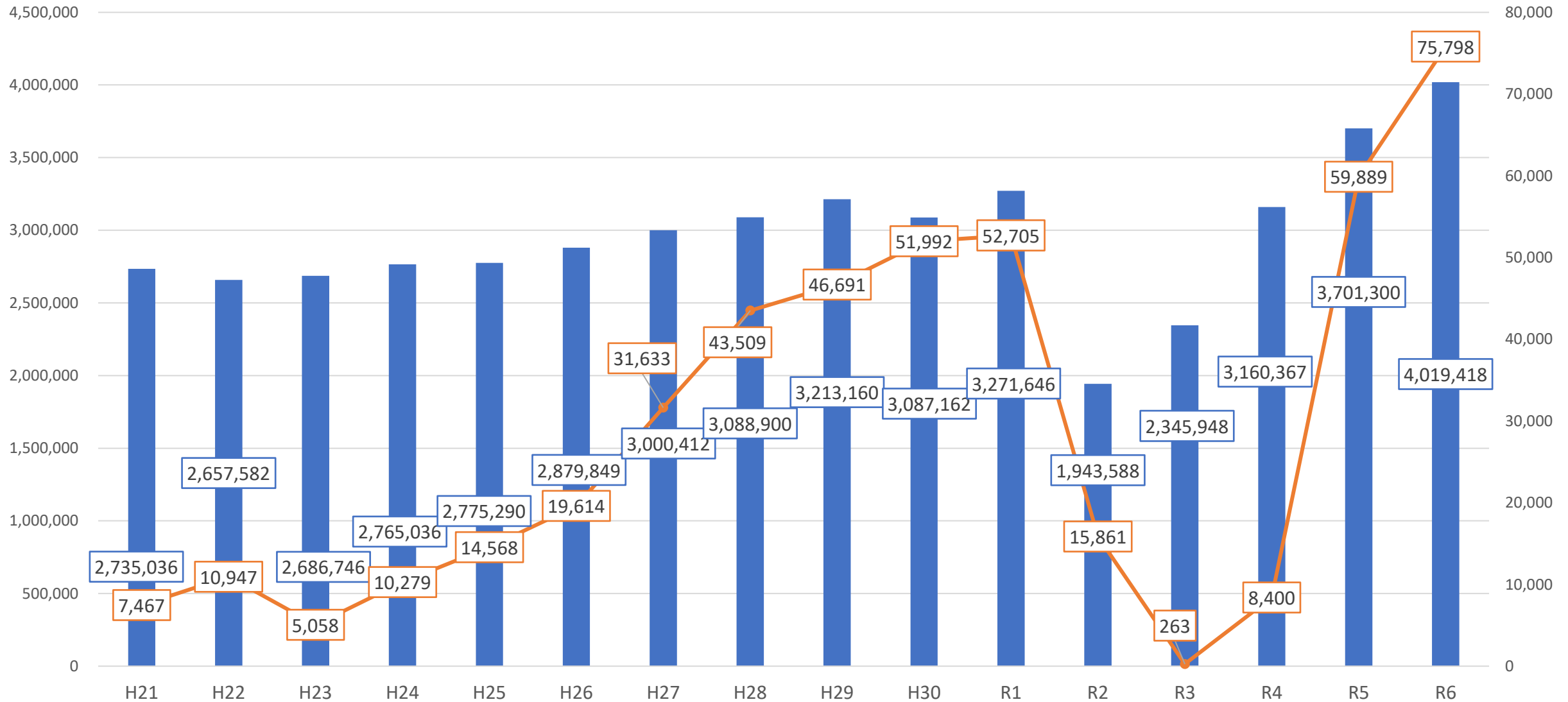
草津温泉の入込客数の推移

令和6年度は過去最高の4,019,418人の入込を記録

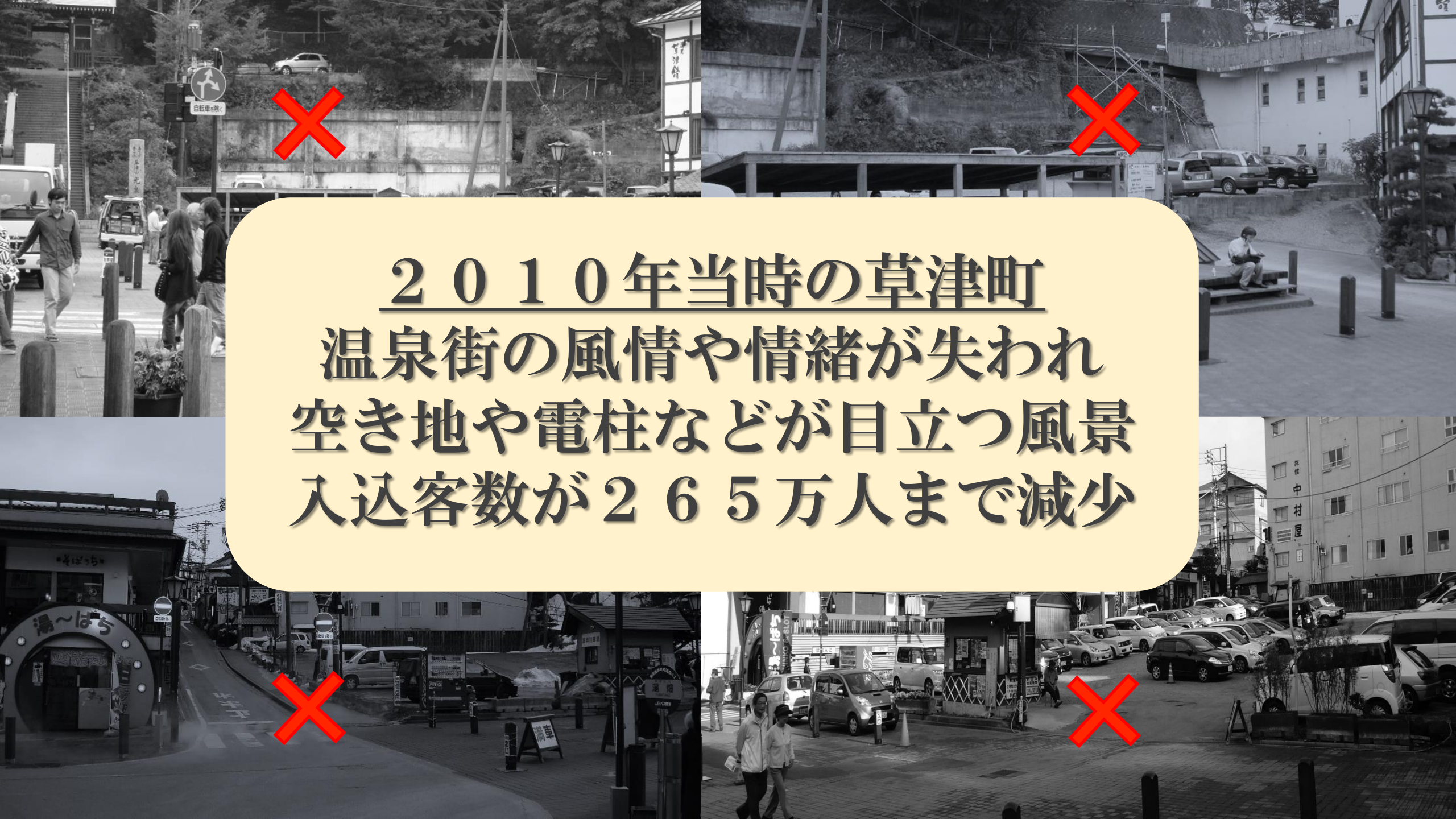
バブル期から32%増、黒岩町長就任時からは51%（136.2万人）の増加となる



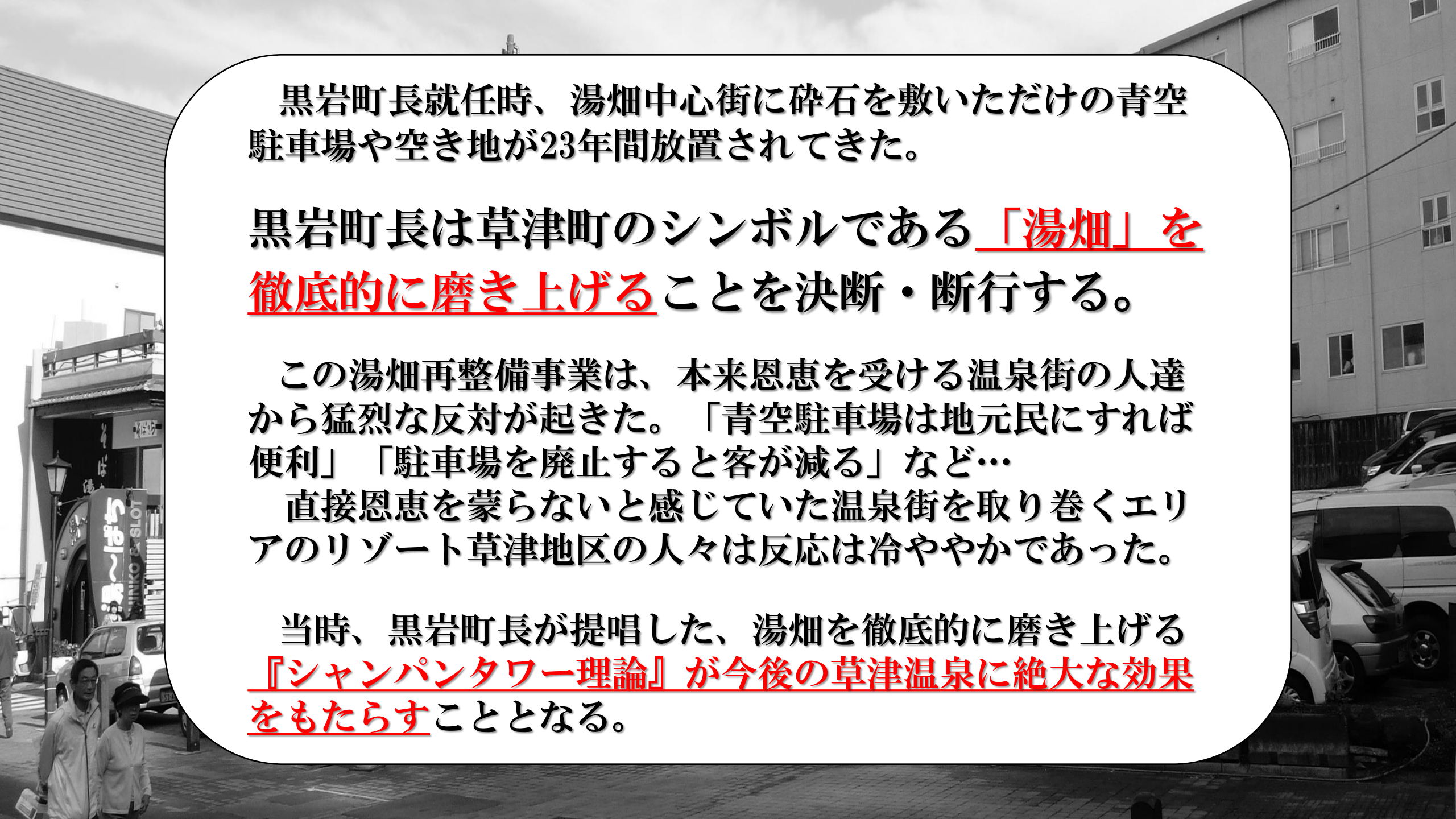
入込客数とインバウンドの推移



※外国人旅行者が全体に占める割合は約1.8%を推移



2010年当時の草津町
温泉街の風情や情緒が失われ
空き地や電柱などが目立つ風景
入込客数が265万人まで減少



黒岩町長就任時、湯畑中心街に碎石を敷いただけの青空
駐車場や空き地が23年間放置されてきた。

黒岩町長は草津町のシンボルである 「湯畑」 を
徹底的に磨き上げる ことを決断・断行する。

この湯畑再整備事業は、本来恩恵を受ける温泉街の人達
から猛烈な反対が起きた。「青空駐車場は地元民にすれば
便利」「駐車場を廃止すると客が減る」など…

直接恩恵を蒙らないと感じていた温泉街を取り巻くエリ
アのリゾート草津地区の人々は反応は冷ややかであった。

当時、黒岩町長が提唱した、湯畑を徹底的に磨き上げる
『シャンパンタワー理論』 が今後の草津温泉に絶大な効果
をもたらす こととなる。

2013年 竣工

明治の趣を

今に再現する共同湯

御座之湯 再建

草津江戸5湯の一つ
高品質な木造建築を使用
百年先にも通用し
日本の温泉文化の象徴となる
共同浴場を目指し再建

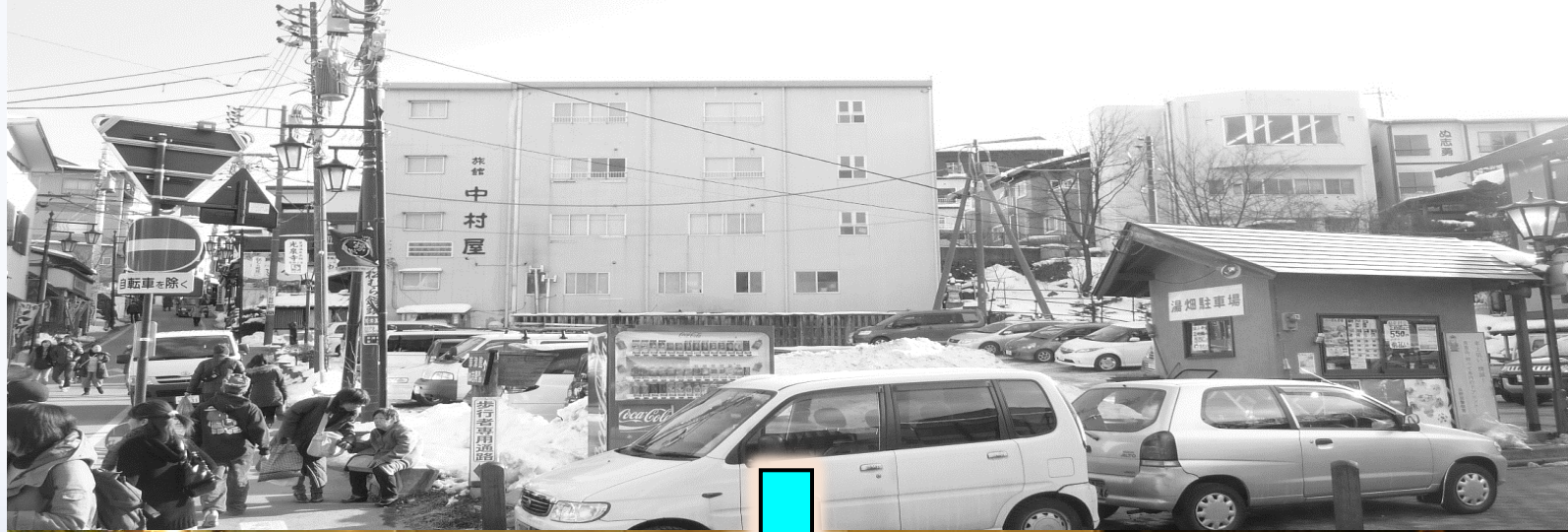


2014年 竣工

浴衣姿でそぞろ歩く
昭和レトロの懐かしさ

広場外周を木造建築物で囲み
広場の引き締め効果と
近隣建物の修景効果を
考慮したデザイン

湯路広場誕生



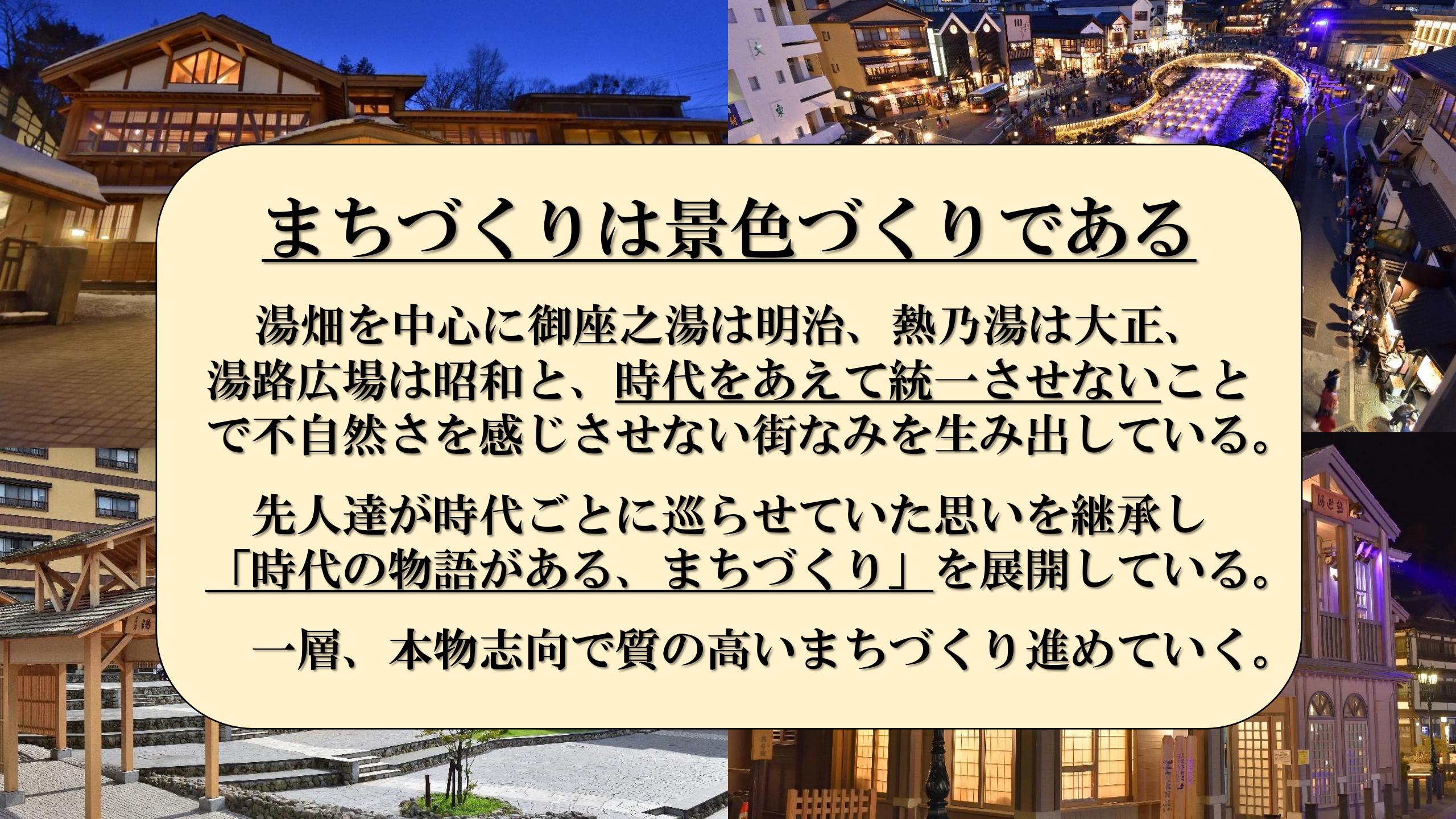
2015年 竣工

伝統文化湯もみを伝承
大正ロマンの佇まい

大正ロマン漂う佇まいで
近隣建物の修景効果を
考慮したデザイン
夜の湯畑を彩る
ライトアップの拠点も兼ねる

熱乃湯 新生





まちづくりは景色づくりである

湯畑を中心に御座之湯は明治、熱乃湯は大正、湯路広場は昭和と、時代をあえて統一させないことで不自然さを感じさせない街なみを生み出している。

先人達が時代ごとに巡らせていた思いを継承し「時代の物語がある、まちづくり」を展開している。

一層、本物志向で質の高いまちづくり進めていく。